



膨らむ医療、介護費どうする

中村秀一(なかむら・しゅういち)
1948年生まれ。厚生労働省社会・援護局長をへて内閣官房社会保障改革担当室長。
医療介護福祉政策研究フォーラム理事長。

「社会保険診療報酬支払基金」の理事長を2年間務めた。医療保険を支える裏方の仕事である。

私達は病院に行くとそのたびに支払いをするが、その額は70歳未満の場合、診療に要した費用の3割である。残りの7割は、私達が所属する保険者が支払う仕組みだ。

このため、医療機関は保険者に支払いを求めなければならない。わが国には約3500もの保険者がある。一方、病院診療所、歯科医療所、調剤薬局などの医療機関の数は約22万にも上る。それぞれが、それぞれに対して請求、支払いを行うとすると、膨大な事務量になる。そこで両者の間に支払基金が入り、医療機関からの請求をチェック(審査)した上で支払う仕事をまとめて行っているのだ。

請求と支払いは月単位で行われる。医療機関は毎月10日までに、前月分の患者ごとの請求者を支払基金に提出する。かつては大病院からの請求書は紙の山をなし、運ぶのにトラックが必要だった。池袋にある支払基金東京支部の周辺は毎月10日近くになると交通が渋滞するほどだった。支払基金のオフィスは紙で埋まり、請求書を保険者ごとに振り分けるのに人力では到底間に合わないので、「振り分け装置」で分類した。機械がうなり、視察した国会議員は「印刷工場のような」と評したものだ。

ここ数年で請求書の電子化が急速に進み、紙の請求書はピーク時の一割以下に激減した。オフィスもすっかり様変わりした。審査委員室に大型のディスプレイが並び、さながらIT企業のような。

しかし、個々の請求書がそれぞれの患者に対する治療行為や薬などの価格を反映していることは変わらない。わが国の医療費が何兆円といわれてもピンとこないが、この現場では、私達の日々の受診結果の集積であることが実感できる。

私達が生涯で使う医療費は、一人当たり2400万円と推計されている。もし、医療保険制度がなくすべて自分で備えるとすると4人家族で約1億円ということになるが、それでは足りるだろうか。

2400万円はあくまで平均である。昨年、一人の患者の医療費で一ヶ月一億円を超える請求書が出てきた。このような高額医療の場合は、普通の家計ではお手上げだ。ここに、皆で協力してリスクに備える医療保険制度の存在理由がある。

生涯の医療費のうち半分は70歳以降に発生する。高齢化は医療費をおしあげるのが。それだけではない。医療は日進月歩で高度化し、それと共に高額化している。年々の医療費を観察すると、診療報酬の改定や制度改正の影響がない年で

年率3%台の伸びを示す。私達は「医療費の上りエスカレーター」に乗っている状態だ。

この2年間、社会保障と税の一体改革の説明のために各地の対話集会に出向いた。会場では、年金制度の将来を懸念する声が多く出た。

だが、年金は2004年の制度改革によって、厚生年金の保険料は17年に18.3%の上限に達し、以後固定される仕組みになっている。このため、年金の給付費は現在の53.8兆円から、25年には60.4兆円と12%増加するが、対国内総生産(GDP)比で見ると、11.2%から9.9%へと、現在よりむしろ低下することが見込まれている。

これに対し、伸びが著しいのが医療と介護の給付費だ。現在35.1兆円の医療費は、25年までに54.0兆円と1.54倍となり、現在8.4兆円の介護費は19.8兆円と2.36倍になる見込みだ。医療と介護は現在、社会保障給付費の約4割を占めているが、25年には約5割を占めるまでに膨らむ。これからの社会保障改革の議論は、医療と介護が焦点とならざるをえない。

数多い医療保険の保険者のうち最大の保険者は、加入者3500万人の全国健康保険協会(協会けんぽ)だ。中小企業のサラリーマンが主体である。政府管掌健康保険を引き継いで08年に発足したが、医療費の伸びとリーマンショック後の賃金の低下をうけて、財政状況は非常に苦しい。発足以来、毎年保険料の引き上げを余儀なくされ、発足時の保険料率8.2%は現在10%まで上昇した。大企業中心の健康保険組合の平均の保険料率8.3%と比べると相当高い。保険料の格差は、これまでになく大きな問題となっている。

自営業、農業、年金受給者、パートタイマーなどは、国民健康保険がカバーすることで皆保険が成り立っている。保険料を納められない人が続出すると、皆保険は崩壊してしまう。

医療費を賄う財源は、保険料か税か、患者負担しかない。低所得者が保険料を払える水準に留める為、税による支援が行われてきた。しかし、今後の医療と介護の費用の伸びを考えると、年金制度にこれ以上税をつぎ込むことは難しそうだ。将来を見据え、制度横断的な視点にたった社会保障の全体設計が急務となっている。